

特別フォーラム「生命科学系学会の合同年次大会の役割を考える」

日時：12月8日(金)18:45～20:15

会場：第17会場(神戸国際会議場 5階 501)

オーガナイザー：篠原 彰(大阪大学蛋白質研究所)

大野 茂男(横浜市立大学大学院医学研究科)

フォーラムの趣旨：

研究者の自律的な営みとしての学会活動のなかでも、年に一度の年次大会は、専門分野の研ぎ澄まされた研究発表会であると共に、学会員に様々な異分野に触れる機会を提供する場として、大きな役割を果たしてきたと思います。生命科学の発展に応じて新たな研究領域が誕生し融合する中で、学会員に様々な異分野に触れる機会を提供する場としての役割が、益々増しているのではないのでしょうか。特に、将来を担う若手研究者が、様々な研究領域に触れる機会を提供する場としての年次大会の役割が増加しているのではないのでしょうか。

本ConBio2017は、規模の大きさを活かした生命科学分野の広い分野に渡るバラエティーに富んだ企画など、新人及び若手研究者が様々な分野と接触することを促進するための、様々な試みを行っています。本フォーラムにおいては、今回の実験的な試みの検証、生命科学分野の学会の年次大会の意義、あるべき姿などについて、語り合うことができればと思います。

対象者：

関係学会のシニア研究者のご参加をお持ちしております。もちろん、研究者の卵の学生さんのご参加も歓迎いたします。さらに、生命科学の発展を願う、様々な立場の方の参加も歓迎いたします。

話題提供：

基礎生命科学の研究動向(科学技術動向調査)

わが国の生命科学系学会年会の現状と世界の状況(生命科学系学会連合)

臨床医学からの期待(日本医学会連合)

ConBio2017の試み(大会組織委員会)

など